



拔忍ばい

-焔紅蓮隊編-



「なんや胸で挟んでほしいなんておかしなやつやな」

ズン
ハッ

ズン
ハッ

「こら、勝手に動かすなや
せっかちなやつやのう」





「気持ちよかったんか？
あしは別になーんも感じんかったけどな」



「またこれか、あんたも物好きやね
あしとしては、なんもせんでええから楽やけど」

ぬ
ほ
ほ
ほ
ほ

フ
フ
フ
フ
フ



「えらいはりきってんなあ、胸になんか射精したって
なんもならへんのにな」







「またよう出たなあ…
終わったんなら、そごいでもうってもええから」

ザラッあ…
ツツ

ツツ
ツツ
ツツ
ツツ



「三人一気に済ましてくれるんならありがたいけど
重たいからさっさと終わらせてな」

「ほれ、もうちよっつとで気持ちよくなれるでー
がんばれがんばれ」





「んっ」



「やっと終わった...
用が済んだならさっさとどいてなー」

あー...ん

しっしょっしょっしょ

「ふ、ふんっ！みんなみたいに大きくなかったって
あんたを満足させることくらい簡単よー！」





「しゅーっ」

どろろ
どろろ
どろろ

びしょ
びしょ
びしょ
びしょ

どろろ

ゴブリんあ〜

ん
ん
ん

「くっさー！誰が顔にかけて良いって言ったのよー！
っていう出しすぎよ、この変態ー！」



「うう…、重い…
なによこれ、擦りつけてるだけで興奮してるわけ？」



「ちよっ!」
急に動きだすんじゃないわよ! 聞いてんの!...?」



「...」



「またこんななに…
終わってたんならうっせーとどぎなせーいよな。」



わっ
わっ
わっ
わっ

しり
り
ぽ
…
ん



「脇に挟ませたり水着破ったり
あんた達どうしようもないほどの変態ね…」

ゆりゆり

グーッ



「んっ…ちよっとくすぐったいわね…」



「しちゃっ!」

ん
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ

ん
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ

ん
ッ
ッ



「うわぁ…本当に射精してる…
こんなのが良いなんてどうかしてるんじゃない?」



「うふふ、捕まえた♡わたしの胸でこうなっちやったんなら
面倒見てあげなきゃね♡」

おっぱい

し
し

し

「こうやって擦られるのが気持ちいいんでしょ？
ほら、いつでも射精していいのよっ。」





「んふ♡」

んふ♡
んふ♡
んふ♡
んふ♡
んふ♡

んふ♡
んふ♡
んふ♡
んふ♡
んふ♡
んふ♡
んふ♡
んふ♡
んふ♡
んふ♡



し
ろ
ろ
ろ
ろ
ろ

ら
ら
ら
ら
ら

「あはっ♡すごい量…そんな気持よかったのかしらっ?」



「うふ、そんなにおっぱいが好きなの？
いいわよ、あなたの好きなようにして♡」



「んっ♡ちよっと、乱暴にしすぎよ」



30
71

V
V

30
71
V
V



「もう…こんなにしてくれちゃって
困った変態さんね♡」

あ…
♡
♡

あ…
♡
♡



「なあに？そんな押し付けちゃって
おっぱいに射精してもなんの意味も無いのに♡」



「んふ♡乳首擦れてくすぐったいお♡」



「おんっ♡」

ブワッ
ブワッ
ブワッ

ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ



だらぬ...♡

「んふ♡もう体中ぬるぬる...
私の胸、気持ち良かったかしらっ♡」

♡
♡
♡

「こちらを胸で挟めばよいのですかね？
このような感じでよろしいでしょうか♡」

ぬ
ぽ
ぽ
ぽ
ぽ
ぽ

っ
っ
っ
っ
っ
っ



「胸の中でどんどん硬くなってきてますわ♡
もう射精しちゃいそうですか?」





あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ

あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ

「沢山でましたわね♥喜んでいただけ
わたくしも嬉しいです♥」

ムニラ
...
V
V

V
V
V
V
V





「そんなに強く抑え込まなくて胸でしっっかり挟んでますので
焦らなくても大丈夫ですよ♡」

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

「あんっ そんな胸に押し付けようにして…
乱暴すぎますあ♡」







「すごい量…うふふ
満足してもらえたようで良かったですわ♥」



むざむざ

ぐいっ

「またこんなにガチガチにして…
わたくしが癒やして差し上げますわね♡」



「良いんですよ、遠慮せずに
思いつきり胸に射精してください♡」



あん♡
びびる

ゴッソ
ゴッソ

「すごい射精量…♡せっかくの衣装が
精液まみれになってしまいましたわ♡」

30
1710

だ
ら
あ
ら
あ
ら



「あたしにだって他のやつらがやっているように
胸で挟むことぐらい楽勝だ……!」

す
わ
ん
ん

ん
ん
ん
ん





「どうした、息が荒くなってきたぞ...
もう限界か?」

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん



「にゃーん」

「ん」
「ん」
「ん」
「ん」
「ん」

「ん」
「ん」
「ん」
「ん」
「ん」



「ふふふ、少し驚いたがこの程度のものか
まあわたしにかかればこれくらい朝飯前だ！」

どーんあ...

んん



「お、重い…なんでも良いから
さっさと済ませてそこからどいてくれ！」



「こら、そんなに激しく突くな……!」

「あっ！」



びゅん
びゅん
びゅん
びゅん
びゅん
びゅん

ぽん
ぽん
ぽん
ぽん
ぽん
ぽん



「ぐぬぬ…こんなに射精して…
気が済んだのだろうっ？ さっさとそこをどけー！」



「なんで私がお前ら三人の相手をしなければならぬんだ！」



「おい、調子に乗って押し付けてくるな!」





「うう…こんなに出しやがって
お前らただじゃおかないからな…」